



セーレ 100 取扱説明書

ご使用の前に.....	2
安全にお使いいただくために	2
操作	3
慣らし焚き	4
毎日のご使用.....	5
メンテナンス.....	6
トラブルシューティング	8

最大出力 Maximum Power	15,480 kcal/hr (18 kw)
重量 Weight	134 kg
燃焼効率 Efficiency	75 %
サイズ (mm) Size	W1,080 x H600 x D480
認証規格 Certified	EN 13229

この取扱説明書は、ストーブの安全、慣らし焚き、操作方法、メンテナンスについて理解していただくためのものです。お使いになる前に必ずお読みになり、いつでも参照できるよう、お手元に保管してお持ちください。



特に重要な警告事項です。



取扱上の注意事項です。

ヘルゴン日本総輸入元

長野総商株式会社

〒389-0207 長野県北佐久郡御代田町馬瀬口 1625-83

Tel: 0267-32-2353 / Fax: 0267-32-2690

ご使用前に

- 暖炉や煙突の近くに衣類、家具、カーテン、紙などの燃えやすいものがないことを確認してください。
- ガソリン、灯油などの可燃性の液体をストーブの側に置かないでください。
- しくみや使用に不慣れな方や子供がいるご家庭では必ず責任者がそばに付いてください。
- 使用中は高温になりますので、火傷にご注意ください。
- 通常使用を始める前に、最低3回（3日）は必ず慣らし焚き（4ページ）を行ってください。
- よく乾燥させた薪を燃やしてください。
- 燃焼中に薪を補充する際は革手袋を使用し、補充時以外はドアを閉めておいてください。
- 付属のグレート、灰受け皿は所定の位置におさめた状態でご使用ください。



安全にお使いいただくために

- 決して改造しないでください。
- キルン乾燥材、塗装木材、処理済木材、溶剤、ゴミ、合板、カラー紙、光沢紙、ボール紙、石炭、流木は燃やさないでください。鋳物やスチール部品を酸化させ損傷の原因となり寿命を縮めます。
- ガソリンタイプ燃料、灯油、木炭用ライターオイル、または他の液体燃料を着火や燃焼を促進させる目的で使用しないでください。これらの燃料は酸素を使い果たし、一酸化炭素を発生させる恐れがあります。近くには決して置かないようご注意ください。
- 灰受け皿の損傷時や、灰受け皿を外した状態で使用しないでください。
- フロントガラスに薪を立て掛けたり、薪がガラスに触れた状態で使用しないでください。
- ドアをボタンと強く閉めたり、ドアで薪を押し込まないでください。ガラス破損の原因となります。
- 燃やしすぎないようにご注意ください。（焚きすぎの注意：5ページ）
- 衣類やキャンドルなどを燃焼中の暖炉のそばに置かないでください。
- 家具、カーテン、衣類などの移動可能な可燃物は、最低1メートル離してください。
- 部屋に煙探知器を設置することをお勧めします。
- 万一の場合に備え、消火器は手の届く場所に用意しておきましょう。
- 灰は適切に処理してください。（灰の処理方法：7ページ）
- 年に一度は煙突掃除を行ってください。使用期間中にも点検を行ない、必要であれば掃除をしてください。

緊急時には（煙道火災が発生した場合）

煙突火災とは、煙突内に付着したススやタールが引火して燃えることです。

万が一、煙道火災が発生した場合、火災が激しいときは、直ちにその場を離れ、消防に連絡をしてください。

火災が軽度の場合は以下の手順で対応してください。

1. 空気調整レバーを閉めてください。（もしあれば、ストーブパイプのダンパーを閉めます。）
2. ドアをしっかりと閉めた状態にします。

煙道火災発生時の注意

決して水をかけないでください。煙道火災は大変高温になるため、瞬間的に水蒸気を発生させ大変危険です。

煙道火災がおさまった後も空気調整レバーは閉めた状態で、炉内の炎が完全に燃え尽きるまで待ちます。本体、煙突の点検を行い、損傷部分の交換・修理が終わるまで決して使用しないでください。

操作

- ◇ 使用中は大変熱くなりますので、お子様が近づかないようご注意ください。また、側に可燃物を置かないでください。

空気調整（コントロールレバー）

炉内に入る空気の量を調節します。左へ動かすと空気量は多く、右へ動かすと少なくなります。



空気量：多い



空気量：少ない

ガラス面下中央のダイヤルで、炉内に入る空気量を調節します。

着火時には、空気が多く炉内へ入るよう左方向 <MAX> へ動かしてください。温度が上がり、理想的な燃焼に達したら、過度な燃焼を避けるため、空気量を調節してください。中間の位置が一般的に最適な設定とされますが、ドラフトの引きや燃料の種類（広葉樹、針葉樹）などにより異なる場合があります。



ドアハンドル、コントロールレバーはご使用中熱くなります。操作時はストーブグローブをお使いください。

灰受け皿

- 灰受け皿を取り扱う際は、必ず本体が冷めた状態で行ってください。
- 燃焼時には、灰受け皿を取り出さないでください。

灰を扱うときには細心の注意を払ってください。灰を処理したら、灰受け皿は必ず元の位置に戻し、しっかりと納まるように最後まで奥へ押し込んでください。（6ページの灰の処理もご参照ください。）



灰受け皿を外した状態や、しっかりと納まっていない状態では、決して使用しないでください。過度燃焼を引き起こし、損傷の原因になります。



シーズン中、灰はきれいに取り除く必要はありません。灰は常に2～3センチ溜めた状態でお使いください。次の着火時に火が点きやすい、火持ちが良いほか、炉床の保護にも役立ちます。

慣らし焚き

最初のご使用時、シーズンの初めには、本格的なご使用の前に必ず慣らし焚きを行ってください。慣らし焚きは、熱に慣れさせ、徐々に伸縮できるように整えるためのものです。

最初から一気に高温で使用すると、鑄鉄部分に割れや破損が生じる恐れがあります。ゆっくりと湿気を蒸発させることが、長くお使い頂く上で大変重要です。

焚き始めには表面から煙や匂いが出ますが、これは塗料や接着剤が焼けたもので、通常は最初の数回でおさまります。窓を開けて換気をしてください。



慣らし焚きの最中で、まれに黒い液体が少量滴ることがあります。炉台が汚れる可能性がありますので、気になる場合には事前に炉台を保護してください。これは結露によるもので慣らし焚きが完了すればおさまります。



破損の恐れがありますので、以下にご注意ください。

- 薪を投げ入れたり、薪をドアで押し込まないでください。
- 表面の凍った薪を燃焼中の暖炉に入れないでください。熱衝撃で破損する恐れがあります。
- 炉内には付属品でないグレートやロストルを置かず、炉床の上で直接薪を燃やしてください。

慣らし焚きの手順

- ① 換気のため、窓を開けます。
- ② グレートと灰受け皿が所定の位置にあることを確認してください。
- ③ ドアを開け、着火剤か、固くねじった新聞紙5、6本を炉内中央に置きます。その上に小割りにした焚きつけ（直径15ミリ程度）を10本ほど交差させて置きます。
- ④ コントロールレバーを一番左へ＜MAX＞動かしします。（炉内に空気を多く取り入れます）
- ⑤ 着火剤（新聞紙）に火を点けます。焚きつけに火が点き上昇気流（ドラフト）が起こるまで、少しの間ドアをかすかに開けた状態にします。
- ⑥ ドアを閉めます。燃焼中はドアが閉じていることを確認してください。
- ⑦ 慣らし焚きでは低温での燃焼を維持するよう、暖炉から目を離さないでください。最初の燃焼では本体をあたためることが目的なので、触れないほど温度を上げないように注意してください。細めの薪を2、3本足す程度で安全な慣らし焚きに必要な温度に達するはずです。
- ⑧ あたたまったら空気調整レバーで空気量を調節して温度を管理し、薪が燃え尽きるまで燃やします。

慣らし焚きは最低3回（3日）、上記手順で必ず行ってください。最初のご使用前だけでなく、毎年のご使用前や、長期間使用していなかった場合には、慣らし焚きを行うことをお勧めします。



慣らし焚きでは燃焼温度が低いため、フロントガラスに汚れが付きやすくなります。

消火について

自然に薪が燃えつきるのを待ち消火として下さい。就寝、外出の際はドアを閉めて頂ければ自然に燃え尽きてしまいます。水をかけて消すことは絶対に避けて下さい。

低温燃焼について

空気を絞って燃焼すること（コントロールレバーを＜OFF＞またはそれに近い位置で状態で燃焼することを低温燃焼と言います。低温燃焼は煙突内部の汚れ（クレオソート）付着の原因となるため、長時間の低温燃焼はお勧めしません。低温燃焼の時間が長い場合には、より頻繁に煙突の点検や掃除を行うことを推奨します。

毎日のご使用 （長期間使用していなかったときやシーズンの初めには、慣らし焚きを行ってください。）



ドアの開閉、コントロールレバーの操作時には必ずストーブグローブをお使いください。

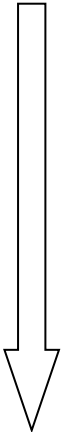


グレートと灰受け皿が所定の位置にあることを確認してください。ない状態のまま使用を続けると、焚きすぎにより本体の損傷を招きます。



灰は毎回きれいに取り除かずに、必ず2～3センチ溜めた状態でご使用ください。次の着火時に火が点きやすい、火持ちが良いほか、炉床の保護にも役立ちます。

着火



1. ドアを開け、着火剤か、きつくねじった新聞紙5、6本を炉内中央に置きます。その上に小割りにした焚きつけ（直径15ミリ程度）を10本ほど交差させて置きます。
2. コントロールレバーを一番左へ＜MAX＞。（炉内に空気を多く取り入れます）
3. 着火剤（新聞紙）に火を点けます。焚きつけが燃え始め、上昇気流（ドラフト）が起こるまで、少しの間フロントドアを1センチ程度開けた状態にします。
4. 焚きつけが燃えてきたら薪を追加します。最初は細めの薪を足し燃焼を促進させます。薪は奥のほうへ置き、フロントガラスから離してください。安定して燃え始めたら、ドアは閉めておきます。

エアウォッシュシステムが機能するよう、薪はフロントガラスから離れた位置に入れましょう。

調整

5. 燃焼が開始したら薪を徐々に追加します。通常の燃焼では3～4本を目安です。
6. よく燃えてきたら、コントロールレバーで燃焼温度を調節してください。空気量が多いと燃焼は加速し高温になり、少ないときはゆっくり低温で燃焼します。

燃焼中にドアを開けるときは、最初に少しだけ開けてから間隔を置き、それからゆっくりとドアを開けます。こうすることで炉内の煙がなくなり、部屋への逆流を防ぎます。



本体が十分にあたたまるまで、エアーコントロールは開けておきましょう。薪の補充時にも。



本体が完全に冷えた状態から着火するときは、ゆっくり温度を上げていくことをお勧めします。



焚きすぎの注意

安全のため、また損傷を防ぐため、**焚きすぎの状態では絶対に使用しないでください。**焚きすぎの兆候として、燃焼時間が短くなったり、ごうごうとうなるような音が聞こえたり、ストーブパイプに変色が見られます。

焚きすぎの主な原因

ドラフト：引きが強すぎる場合は販売店にご相談ください。

使用燃料：石炭、ベニヤ、廃材など、自然乾燥させた薪以外は燃やさないでください。

操作方法：ドアを開けた状態で、またグレートや灰受け皿を外した状態で使用しないでください。

メンテナンス：ガasketをチェックし、剥がれたり擦り切れたりしたものは交換してください。

焚きすぎが疑われる場合には販売店にご相談ください。**焚きすぎによる損傷は保証対象になりません。**焚きすぎによる損傷には、内部パーツのゆがみや焼損、外部パーツの変色やゆがみが含まれます。

薪について

この暖炉は薪専用です。



化学薬品、またはガソリン、ナフサ、灯油、木炭用ライターオイル、エンジンオイルなどの可燃性の液体を着火剤として使用しないでください。木炭、ペレット、石炭などの薪以外の燃料やゴミを燃やさないでください。また、海水に浸かった流木の使用は塩分により錆鉄、スチール部品を腐食し、ストーブを傷めます。

熱量、燃焼時間には薪の質が影響します。軟木（針葉樹）は火力が上がりやすい反面火持ちが悪く、一方で堅木（広葉樹）は火持ちがよくて炭が多くでき、あたためる力が大きいため、理想的な薪と考えられます。

性能を十分に発揮するためには、薪の乾燥度がとても重要です。

薪の水分含有量は燃焼に大きく影響します。生木には水分が多く含まれ、なかなか燃えないだけでなく煙突を詰まらせる原因となります。よく乾燥させた薪を燃やすことが重要です。割った薪は日当たりがよく風通しのよい場所で、直接地面に触れないよう木製のパレットやブロックの上に積み、最低2年は乾燥させます。雨に濡れないよう上を覆います。側面を覆うと水分が逃げず乾燥しません。

メンテナンス

定期点検チェックリスト

週に一度	☐ 炉内の灰をチェックし、2～3センチ残して余分な灰を処理してください。
二ヶ月に一度	☐ 使用頻度に応じ、煙突内のクレオソートをチェックしてください。 ☐ ドアガasketをチェックしてください。本体が冷めた状態のときに紙をはさんでドアを閉め、そのまま抵抗なく紙が抜ける場合は、ガasketの交換時期です。
シーズンの終わり	☐ 煙突を点検し、煙突掃除を行ってください。 ☐ 炉内の掃除を行ってください。 ☐ ドアガasketをチェックし、磨耗、擦り切れ、亀裂や極度に硬くなっている場合は交換してください。

ガラス

使用されているフロントガラスは熱衝撃に強い専用のものです。必要に応じ、専用のガラスクリーナーで汚れを取り除いてください。ガラスのお手入れは、使用中やガラスが熱いときは避け、必ず冷めている状態で行ってください。割れやひびが生じたときは、新しいガラスに交換してください。薪ストーブ用に作られたものではないガラスは決して使用しないでください。新しいガラスは施工店へお問い合わせください。



ガラスに衝撃を与えたり、ドアを勢いよく閉めたりしないでください。



ガラスに割れやひびが生じたときは、ご使用を控えてください。



表面に引っかき傷ができるとガラスの強度が落ち、割れる危険性があります。カッターなどの鋭利な刃物、スチールウールや研磨剤は使用しないでください。薪ストーブ専用ガラスクリーナーをご使用ください。

灰の処理

シーズン中、灰はきれいに取り除く必要はありません。灰は常に2～3センチ溜めた状態でお使いください。次の着火時に火が着きやすい、火持ちが良いほか、炉床の保護にも役立ちます。



灰が完全に冷えてから行ってください。灰の扱いには十分ご注意ください。



シーズン中、灰は毎回きれいに取り除かずに、必ず2～3センチ溜めた状態でご使用ください。次の着火時に火が着きやすい、火持ちが良いほか、炉床の保護にも役立ちます。

灰は直接炉内からシャベルで取り出すか、灰受け皿を引き出します。灰を処理したら灰受け皿を元の位置へ戻します。灰受け皿があたたかい場合には、革手袋をご使用ください。灰の扱いには十分ご注意ください。



取り出した灰は金属製のフタ付き容器へ移します。容器の中へ灰以外のものを入れないでください。容器に移したら、フタを閉めて空気を遮断し灰を冷まします。灰を入れた容器は可燃性の床の上には置かないでください。灰の中に残った炭は数日間熱を保つ場合があります。灰が完全に冷えるまで、必ずフタをした状態で、不燃性の床か土の上に置き、可燃物から離しておいてください。木製やプラスチック製の容器、紙袋やビニール袋には決して灰を入れないでください。

ガスケットの交換

ガスケットは気密性を保ち、燃焼効率を上げる役割をします。ガスケットの交換は通常2～3シーズンに1回が目安ですが、使用頻度にもよりますので、定期的にガスケットチェックを行い気密性が低下していたり、はがれや劣化が生じていたら交換してください。詳しくは施工店へお問い合わせください。

煙突掃除

薪がゆっくりと燃えている（燃焼温度が低い）状態ではタールやその他の有機蒸気が発生し、蒸発した水分と組み合わさってクレオソートを形成します。クレオソートはゆっくりと燃えている状態の、比較的温度の低い煙突に付着し、結果的に蓄積されてしまいます。クレオソートに引火すると極めて高い温度で燃焼し、煙突にダメージを与えるだけでなく、ときには建物の火災をも引き起こします。シーズン中は、2ヶ月に一度はストーブパイプと煙突内を点検し、クレオソートの形成が進んでいないかどうか確認することをお勧めします。クレオソートの厚みが6ミリ以上のときは、煙突火災予防のため煙突掃除を行ってください。

煙突の詰まりは通常の燃焼を妨げるばかりか煙突火災等、いろいろなトラブル発生の原因となります。掃除の回数は使用薪の状態などで変わりますが、年に一回は煙突掃除を行ってください。また、煙突の吸い上げ（空気を引っばる力）が落ちてきたと思われるときは煙突掃除を行って下さい。

クレオソートの形成を防ぐには、毎日焚き始めに30分程度、空気調節レバーを全開にして燃やします。また、薪を補充した後も、20～30分は空気調節レバーを全開にして燃やします。燃焼室の温度が高温になることで効率よく燃焼し、煙道内のクレオソートの形成を最小限に抑えることができます。

フロントガラスが汚れやすい場合は燃焼温度が低く、クレオソート形成の危険性が高いと考えられます。表面温度が低い部分はクレオソートの形成が進みやすいため、煙突を点検するときは、最も温度が接続部とトップに近い部分を点検してください。

クレオソートの除去には、使用煙突に合ったブラシを使い、煙突掃除を行ってください。また、シーズン前には、専門業者による点検、掃除をお勧めします。

トラブルシューティング

直面する問題のほとんどはちょっとした操作の調整などで修正が可能です。天候状態がパフォーマンスに影響する場合、問題は概して一時的なものである場合が多く、天候が戻れば自然と解消します。

ドラフトが簡単に起こらない日もありますが、ほとんどは季節的な要因と煙突が温まりにくいことが原因です。そのようなときは、細い焚きつけを使って火をおこし、より速く火力が上がるようにします。速く煙突があたためられドラフトが発生するよう、こまめに細い薪を補充して火の面倒をみましょう。

ドラフトに影響を与える要因

- **高気密住宅**：高気密住宅の場合には室内の空気が不足し、換気扇や衣類乾燥機などの使用により、さらに状況を悪化させます。
- **背の高い木や建物**：煙突のトップ近くに高い木や建物がある場合、煙が逆流することがあります。慢性的あるいは一時的な場合もあります。煙突を設置する際には、周辺の建物の位置を考慮する必要があります。
- **風**：突発的な風は煙の逆流を招く原因となります。
- **気圧**：穏やかな日、雨の日、蒸し暑い日はドラフトが起こりにくいとされますが、天候が変われば解決します。
- **活発な燃焼**：火が強く、煙突の温度が上昇すると、強いドラフトが起こります。
- **煙突の部材接続部**：点検口や部材接続部などがしっかりと密閉できていない場合、十分なドラフトが起こらない原因となります。
- **季節**：秋口や春の終わりは適度なドラフトが起こりにくい季節です。室温と比べて外気温が低いほうが、ドラフトが発生しやすいと言われます。

トラブルシューティングガイド

問題	考えられる原因	解決方法
煙の逆流	操作方法	ドアを開ける前に空気調節レバーを1分間全開にし、薪の補充後も数分間全開の状態で燃やしてください。
煙が部屋へ戻る	煙突があたたまっていない	着火時に細い薪を燃やし、しっかりと煙突をあたためてください。
	換気扇の使用	焚き始めには換気扇を止めてください。解消しない場合は窓を開けて空気を補充してください。
	煙突の詰まり	クレオソートの付着が進んでいないか点検し、必要であれば煙突掃除を行ってください。
	灰が多すぎる	灰の除去を行ってください。
燃えが速い	ドアからの空気漏れ	ドアをしっかりと閉めるか、ガスケットを交換してください。
	ドラフトが強すぎる	空気調節レバーを閉めてください。煙突の点検をし、必要であればダンパーを取り付けます。（施工店へご相談ください）
温かくない	薪が乾燥していない	最低でも1年間（広葉樹は2年間）乾燥させた薪をお使いください。
	燃焼温度が低い	高温燃焼を心がけてください。
	煙突の劣化	煙突の点検を行ってください。
	建物からの熱損失	窓のコーキングなどの補修を行ってください。